

2003年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2003年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2003年度秋季総合分科会の際の9月25日(木)14時35分より、千葉大学総合校舎B号館にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第8巻3号の会報111でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介は、今までと同様にご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載することになりました。(五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。)

特別賞

藤野 修 (名大多元数理, 助教授)

業績の題目: 「対数的アバンダンスとその応用」

現在プリンストンにて充電中。先日は雪の中から愛車を掘り出すのに一苦勞。雪国初体験中。

この文章が皆さんの目に触れる頃には春なのかな?

今後も代数多様体の研究を頑張りたいと思います。

志摩亜希子 (東海大理, 講師)

業績の題目: 「射影図とクワンドル・コホモロジーを用いた曲面結び目の研究」

4次元空間に埋め込まれている曲面について研究しています。state-sum invariant を使って、3重点についてや、最近では chart という平面グラフを使って、曲面結び目を研究しています。

伊藤 稔 (京大理, 学振PD)

業績の題目: 「Capelli 型恒等式の研究」

表現論の立場から Capelli 恒等式の周辺を研究しています。いろんな計算が不思議にうまく行くのですが、どうも氷山の一角しか見えていないようです。芋蔓式に少しずつ研究が進んできましたが、そろそろ新しい飛躍をしたいと思っています。

奨励賞

梁 淞 (名大多元数理, 助手)

業績の題目: 「大偏差原理の精密評価」

大偏差原理の精密化として、ラプラス近似に興味を持ち、研究して来ました。今まで、

多くの方々が面倒を見てくださり、心より感謝致します。これからも頑張りたいと思いますので、ますますの御鞭撻宜しくお願い申し上げます。

福泉 麗佳（東北大理，学振 PD）

業績の題目：「非線型分散型方程式の孤立波解の安定性・不安定性とその漸近解析」

孤立波の安定性の問題は時間発展した方程式の解析と定常問題の解の性質を結ぶ興味深い問題だと思います。今までに助言をして下さった全ての方々，特に，学部と大学院において指導して下さった田中和永先生と堤誉志雄先生に感謝致します。

井上 玲（東大総合文化，学振 PD）

業績の題目：「代数解析的手法による離散可積分系の研究」

物理のモデルが様々な数学に結びついていくのに興味を持って研究しているうちに、少しずつ数学の世界の方へ引かれてきました。物理学科出身でこのような賞を頂きたいへん嬉しいです。これまで指導，議論をして下さった方々に感謝致します。

川村 友美（青山学院大理工，助手）

業績の題目：「結び目解消数の4次元的评价とディバイド絡み目の研究」

絡み目の解消数や4次種数などに関連して、代数曲線とも関わるディバイドで表せる絡み目の性質を、最近は主に研究しております。

多くの方に支えられて今回の受賞となりました。今後の研究を通して恩返しができるように精進致します。

坂内 健一（名大多元数理，助手）

業績の題目：「 p -進ポリログの研究」

今までは主に p -進解析，特に p -進ポリログの研究をしていました。最近はより整数論的な話題に興味を持っています。今後も頑張ります。いつもお世話になっている多くの方々に心より感謝いたします。